

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」
海外の専門情報

No.76

調査者	井澤 和夫、加藤 倫卓、山本 周平
情報ソースの刊行日	2021 年 4 月 20 日
情報ソースの調査日	2021 年 4 月 22 日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2021 年 4 月 23 日
日本語タイトル	COVID-19 パンデミック時に心臓リハビリテーションを提供するためにテクノロジーはどのように活用されたか？ BACPR による国際横断的調査
情報ソース	O'Doherty AF, et al. How has technology been used to deliver cardiac rehabilitation during the COVID-19 pandemic? An international cross-sectional survey of healthcare professionals conducted by the BACPR (British Association for Cardiovascular Prevention and Rehabilitation, BMJ Open. 2021 Apr 20;11(4):e046051.
情報のカテゴリー	包括的心リハ、その他
発信地域	ヨーロッパ
URL	https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33879492/
要約	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19 パンデミック中、運動を主体とした心臓リハビリテーション（心リハ）サービスが継続されたか？、また、在宅心リハを提供するためにテクノロジーがどのように活用されたか？につきオンラインにて調査された（2020 年 6 月 2 日から 7 月 31 日まで）。 主要アウトカムは、運動を主体とした心リハを提供し続けたプログラムの割合、および在宅ベースの心リハを提供するために使用されたテクノロジーであった。全 330 回答中 89.7%が英国からであった（日本 2.4%、オーストラリア 1.2%、米国 1.2%、アイルランド 1.2%、そして、ジブラルタル、インド、南アフリカ、スペイン、各 0.6%など）。 全回答者の 49.3%が、心リハ中断を余儀なくされた。継続したプログラムのうち、25.8%が COVID-19 パンデミックの前にテクノロジーを活用していた（テクノロジーは COVID-19 パンデミック後 19 日以内に活用）。全体の 48.8%において、高リスク患者には、心リハは施行されていなかった。電話が心リハ提供のために最も活用されていた（一部の施設では電話会議などの高度技術を活用）。 テクノロジーの活用は有望である。しかし、特定の患者グループの除外とプログラムの一時停止は、臨床症状を悪化させ、入院を増やす可能性がある。高リスク患者への運動支援に関する安全上の懸念に対処することに焦点を当てた、更なる改善が必要である。